

えいごたどく
英語多読

おたすけ BOOK



はじめて
たどくん

初めての人におすすめの本はなに？

英語多読 Q&A もあるよ！

町田市立図書館

最新情報は市立図書館
ホームページをチェック！⇒



初めて英語多読をやる人は、
どんな本がおすすめ？



はじめて
たどくん



ものしり
たどくん

ORT (Oxford Reading Tree) からはじめるといいよ！
絵から物語をイメージしやすいし、話が短いのですらすら読めるよ。

ORT って初めて聞いたよ。どんな話？



はじめて
たどくん



ものしり
たどくん

とある家族の日常のお話だよ。
子どもたちの表情が豊かだから、楽しく読み進められるし、最後にクイズがあるからうちの子たちも大好きだよ。

え、たど先輩子どもいるんだ…。
ORT の他におすすめの本はある？



はじめて
たどくん



ものしり
たどくん

英語多読をこれから始める人には、
ピンクのラベルの絵本が読みやすいよ！
その他にもパラパラと開いてみて
感覚的に好きな本を選んでもいいよ。
なんだか楽しそう、とか。

それでもいい？



はじめて
たどくん



ものしり
たどくん

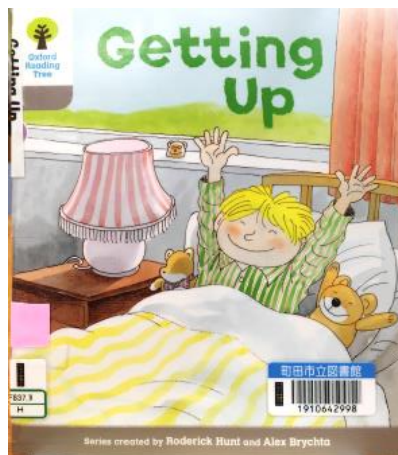
まずは楽しんで読んでみるのが大事だから、
気に入った本を読んでみるのが大事だよ。
でもポイントは“しっかり”読まないこと！！
分からない言葉があっても調べず、
絵や話の流れから想像するだけでいいよ。

全部の文の意味が分からなくてもいいんだね。
それならできそうだよ！




はじめて
たどくん

ORT って何だろう



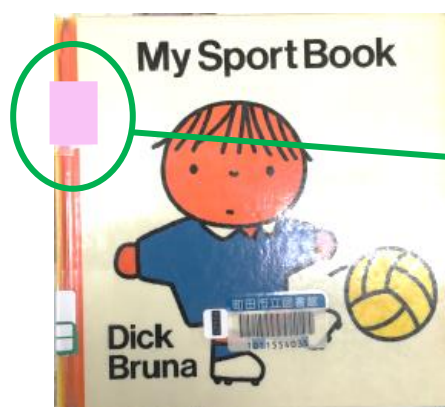
英語圏の子供たちが学習教材として使用している絵本です。内容は Kipper の家族を中心に、シリーズ前半はイギリスの日常を描いたほのぼのストーリー、後半は「マジック・キー」を使って時空を超える冒険物語。1つのお話しが短いため、英語の絵本を読むのが初めての方でもあっという間に読めます。まさに絵を楽しむ多読にぴったりのシリーズ。

ORT のおもしろポイント

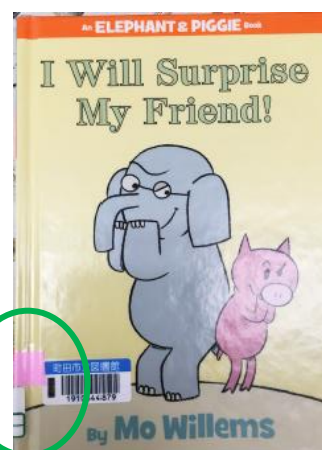
- 👉  がどこかに描かれています。探しながら読んでみましょう！
- 👉 絵をすみずみまで見てみましょう。単語が分からなくても子どもたちの表情や、犬のリアクションが話の流れのヒントになるかもしれません。

ORT 以外のおすすめ本は？

- ◆ ラベルがピンクの本がおすすめ。町田市立図書館では以下のシリーズが人気。
 - ミッフィー作品で有名なブルーナの絵本：文章が短いので読みやすい。
 - Elephant and Piggie シリーズ
ぞうの Gerald とぶたの Piggie の友情の物語。二人の掛け合いが面白い人気シリーズ。



ラベルは
背表紙に
ついてい
ます



Q.多読ってなに？

- A. だれでも“楽しく”ことばを獲得できる、それが多読です。
「多読三原則」を使ってごくやさしい、おもしろい絵本をたくさん楽しんでいると、やがて児童書やペーパーバックも読めるようになります。

Q.多読三原則とはなんですか？

- A. 多読三原則とは、早く楽しく英語に慣れ親しむための読み方のヒントです。
- ◆ 辞書は引かない。
 - ◆ 分からないところは飛ばす。
 - ◆ 合わないと思ったらやめる。

Q.分からないところを飛ばして、そのうち分かるようになりますか？

- A. わかるようになります。
多読を続けていると、いつも飛ばしていた言葉が急に“知っている”言葉になっていきます。まずは、楽しくたくさん絵本を読むことが大切です。

Q.多読は何歳から始められますか？

- A. 多読はいつでもどなたでも始められます。
子どもには読み聞かせから始めるのがおすすめです。うまく読む必要はありません。一緒に楽しんで読むことが大切です。

Q.一日どれくらい読めばいいですか？

- A. 一日の読む量に決まりはありません。毎日読まなくてはならないということもありません。
気が向いたときに、気が向いただけ読むようにしましょう。

Q.どの本を選んでいいかわかりません。

- A. まずはピンクのラベルの本や、楽しそうな絵本を選んでみましょう。最初は「文字のない」絵本で絵を読み、絵から物語の内容が分かることができるようになったら、少しずつ文字の多い絵本に変えていきましょう。

Q.多読はただ本を読むだけでいいのですか？

- A. はい、ただ楽しく読むだけで結構です。
最初は絵が多いやさしい絵本から始めましょう。多読三原則にそって、楽しく気軽に読んでみましょう。

Q.どうして辞書を引かない方がいいのですか？

- A. 辞書を引いていると、読むのに時間がかかって、内容を楽しめなかったりすることも。絵から物語を想像し、その言葉が使われている「場面」や「気持ち」に何度も出会っているうちに、その言葉のイメージをつかめるようになります。